

世界に挑み

ラグジュアリーブランドを目指す

日本のファミリービジネス

早稲田大学総合研究機構

国際ファミリービジネス総合研究所

ラグジュアリーブランディング研究所



川上 泰雄

早稲田大学総合研究機構長

スポーツ科学学術院教授

総合研究機構は、学内に設置された「プロジェクト研究所」を束ねる組織です。プロジェクト研究所とは、早稲田大学の専任教員が核となり、文系・理系を問わず、連携型の共同研究を推進するために、2000年4月に発足した研究グループです。「研究所」というと、大きな建物や永続的な研究員組織が一般的に連想されますが、プロジェクト研究所とは、一定期間内に所定の研究プロジェクトを遂行するために設置される、時限的、機能的な研究単位であり、多くの場合、専用の建物等は存在しません。しかし、各研究メンバーの拠点を多角的につなげた、建物の枠を超えた幅広い研究の場を作り上げています。

発足後20年を迎え、重点領域研究機構を統合する形で、総合研究機構は約120に及ぶプロジェクト研究所を束ねる組織となりました。この間、各プロジェクト研究所は、早稲田大学全体の教員、研究者の自由で闊達な研究活動を活性化し、社会連携を伴う研究活動を促進する上で大きな機動力を担ってきました。また、学外の研究者の方々も、海外を含めて研究員として参画し、本学を中核にした研究組織はグローバルな展開を見せながら「研究の早稲田」の最前線で奮闘しています。

早稲田大学総合研究機構、そして各プロジェクト研究所へのご支援を心よりお願い申し上げます。



1/27(水) 18:30 - 20:50

「ラグジュアリーブランディングとファミリー・ガバナンス」

国際ファミリービジネス総合研究所

国際ファミリービジネス総合研究所

世界でみても非常に企業数が多く、またユニークな存在である日本のファミリー企業が世界的に発展・成長するために重要と思われるラグジュアリーブランディングとファミリー・ガバナンスに焦点を当てた研究成果報告会を実施したい。

具体的な内容は、①米国一流ファミリービジネス研究者による日米のガバナンスを中心とした比較研究、②これまで研究を重ねてきた成果を発表する基調講演、研究発表、③日本を代表するファミリー経営者によるパネルディスカッションである。

日本のファミリー企業が世界的に発展・成長するためにファミリー企業のブランディングやガバナンスシステムについて討議したい。



長谷川 博和

国際ファミリービジネス総合研究所長

早稲田大学大学院経営管理研究科(ビジネススクール)教授

早稲田大学アジア太平洋研究科博士後期課程修了、学術博士(早稲田大学)。野村総合研究所で自動車分野の証券アナリスト(アナリストランキング自動車分社で日本トップ)、株式会社JAFCOを経て。独立系ベンチャーキャピタルの草分けであるグローバルベンチャーキャピタルを創業し、社長、会長(投資先上場企業としてインターネット総合研究所、スカイマークエアラインズ、オイシックス、ジャパントイッシュエンジニアリング、HOKU SCIENCE(NASDAQ)など多数。運用してきたファンドのパフォーマンスは日本トップクラス)、京都大学大学院MBA非常勤講師、青山学院大学MBA特任教授を経て2012 年から早稲田大学MBA教授に就任。公認会計士、日本証券アナリスト協会検定会員、経済産業省経済大臣有識者会議委員、委員会委員長・座長、総務省委員会委員長、日本ベンチャー学会副会長、日本ファミリービジネス学会理事などを歴任。



ジョン・デAVIS教授 (PROFESSOR JOHN DAVIS)

MIT SLOAN SCHOOL OF MANAGEMENT
SENIOR LECTURER & CAMBRIDGE
FAMILY ENTERPRISE GROUP, CHAIRMAN

CAMBRIDGE FAMILY ENTERPRISE
GROUP創業者、会長。MITスローン経営大学院にてファミリーエンタープライズプログラムのシニア講師及び教員長の任にある。ファミリービジネス、一族資産、そしてファミリーオフィスといった分野において概念的枠組を構築し、同分野のパイオニアとして世界から一目置かれる存在。また、研究者、教育者、著者としてだけでなく、世界の第一線で活躍する一族のアドバイザーとしても活躍中。

講演テーマ

「ファミリービジネスが世界へ打って出る前に考慮すべき諸要因」

今日、なぜ国際的なビジネスが重要であり、ファミリービジネスがどのように国際展開すべきかについて議論する。さらに、国際化を支える一族・株主間の連帯及び優れたガバナンスの重要性についても論じる。

ホームページ: JOHNDAVIS.COM / TWITTER: [@PROFJOHNDAVIS](https://twitter.com/PROFJOHNDAVIS)



落合 康裕

静岡県立大学経営情報学部 教授

博士(経営学)。事業承継学会常務理事、ファミリービジネス学会常任理事。大和証券、日本経済大学をへて、現職。静岡県立大学での研究活動を軸に、早稲田大学ビジネススクール、名古屋商科大学ビジネススクールで事業承継講座(ケースメソッド)を担当。『ファミリービジネス白書』の企画編集委員長をつとめる。主著に『事業承継のジレンマ』『事業承継の経営学』(以上、白桃書房)など。



浅羽 茂

早稲田大学大学院経営管理研究科(ビジネススクール)教授

東京大学経済学部卒業。東京大学より博士号(経済学)を取得。カリフォルニア大学ロスアンゼルス校よりPH.D.(MANAGEMENT)取得。学習院大学教授等を経て、2013年より現職。組織学会会長、ASIA PACIFIC JOURNAL OF MANAGEMENT EDITORIAL REVIEW BOARD、公認会計士試験委員、国家公務員採用I種試験専門委員等を歴任。ACADEMY OF MANAGEMENT REVIEWなどの国際的な主要経営学術誌に論文を掲載。経営戦略や経済学に関する著書多数。



星野佳路

株式会社星野リゾート代表

1960年長野県軽井沢生まれ。慶應義塾大学経済学部を卒業後、米国コーネル大学ホテル経営大学院修士を修了。帰国後、91年に先代の跡を継いで星野温泉旅館(現星野リゾート)代表に就任。以後、経営破綻したリゾートホテルや温泉旅館の再生に取り組みつつ、「星のや」「界」「リゾナーレ」「OMO(おも)」「BEB(ベブ)」などの施設を運営する“リゾートの革命児”。2003年には国土交通省の観光カリスマに選出された。



山井 太

株式会社スノーピーク会長

1959年新潟県三条市生まれ。明治大学卒業後、外資系商社勤務を経て86年、父が創業した現在のスノーピークに入社。アウトドア用品の開発に着手し、オートキャンプのブランドを築く。96年から現職。毎年30～60泊をキャンプで過ごすアウトドア愛好家であり、徹底的にユーザーの立場に立った革新的なプロダクトやサービスを提供し続けている。14年12月東証マザーズに上場、15年12月東証一部に市場変更。



林 良一

株式会社ファミリア 取締役執行役員

1998年大阪大学経済学部卒業。電力会社に2年間勤務した後、退職してベルギー王国へ渡り、大学研究機関で環境経済学分野の研究に取り組む。帰国後の2005年に株式会社ファミリアに入社。大阪の直営店勤務や神戸本社での製品企画や生産管理業務などを経験し、2016年に東京オフィスへ異動。総務人財責任者や営業責任者を経て、2018年に執行役員となり2019年4月より現職。



米田 隆

早稲田大学ビジネス・ファイナンス研究センター上級研究員（研究院教授）



1/28(木) 18:30 - 20:50

「コロナ禍だからこそ、長く使える価値ある製品、文化を創
るブランドを目指せ!」

ラグジュアリーブランディング研究所

ラグジュアリーブランディング研究所

コロナ禍では本物が求められる、それは職人技の詰まった価値ある製品、文化を創るブランド≡ラグジュアリーだ。エルメスは1837年創業のパリの街角の馬具屋だ、日本にはそれより古い老舗やこだわりのものづくりをする地場伝統企業が多いのに後継者が居なくて潰れそうなのは大きな間違い。

衣・食・住のすべて、ファッションでも、ワインでも、時計でも、日用生活品でも、その土地に根付き、職人技が光っていて「用の美」で文化を作るような高くても売れる「こだわり」の製品、高くても熱烈なファンの居るブランド≡ラグジュアリーを目指そう!



長沢 伸也

ラグジュアリーブランディング研究所長

早稲田大学大学院経営管理研究科(ビジネススクール)教授

1980年早稲田大学大学院理工学研究科修了。立命館大学教授等を経て2003年より早稲田大学ビジネススクール(現、大学院経営管理研究科)教授、現在に至る。工学博士。仏ESSECビジネススクール、パリ政治学院各客員教授等を歴任。商品開発・管理学会長、横幹連合理事、日本感性工学会参与(元副会長)。JOURNAL OF GLOBAL FASHION MARKETING (ROUTLEDGE), LUXURY RESEARCH JOURNAL (INDERSCIENCE)等5英文誌の編集委員・編集顧問。『ルイ・ヴィトンの法則』『ラグジュアリー戦略』など著書・訳書116冊、論文451編。



川上 智子

早稲田大学大学院経営管理研究科(ビジネススクール)教授

神戸大学で博士号取得、関西大学教授を経て2015年より現職。2019年早稲田大学にマーケティング国際研究所(MII)を設立,所長に就任。早稲田ブルー・オーシャン・シフト研究所(WABOSI)副所長。ワシントン大学・INSEAD他の客員研究員を歴任。日本マーケティング学会理事、国際学会の理事職他を歴任。2017年アジア・マーケティング研究者トップ100に選出。専門はマーケティング論、イノベーション論。



高田 力

GIA TOKYO代表責任者

慶應義塾大学総合政策学部卒業。シカゴ大学MBA。株式会社ミキモトにてキャリアをスタートさせ、ミキモト香港にて商品部門マネージャーを勤める。その後、TIFFANY & CO. ASIA PACIFIC(香港オフィス)にてアジア全域のAFTER SALES SERVICEとCUSTOMER SERVICE部門のREGIONAL DIRECTOR、そしてRALPH LAUREN WATCH & JEWELRY部門ASIA地域のBRAND DIRECTORを経て現職。



川崎 圭太

リシャールミルジャパン代表取締役

1961年生まれ、東京都出身。1984年に大手の総合商社に入社。そこではスポーツ、アパレル、時計事業に携わる。1997年に同社でヴァンクリーフ&アーベルとゼニスを担当後、事業開発部長に就任。その後、2001年にリシャール・ミル氏と出会い、興味を惹かれる。そして2004年に東邦時計の時計部部長就任と同時に、リシャール・ミル日本正規輸入代理店をスタート。従来の高級時計のマーケティング手法にとらわれない型破りな戦略で、超高級時計ブランドとしての地位を確立。そして2010年、リシャールミルジャパン設立と同時に同社の代表取締役に就任。



有賀 雄二

勝沼醸造株式会社代表取締役社長

1955年生まれ。東京農業大学農学部醸造学科卒業。1978年4月、勝沼醸造株式会社入社。1988年5月、専務取締役就任。1999年5月、代表取締役社長就任、現在に至る。山梨県ワイン酒造組合副会長。公益社団法人山梨法人会甲州支部長。勝沼ワイン協会会長。



玉川 基行

株式会社玉川堂代表取締役社長

1970年生まれ。1993年、玉川堂入社。2003年、玉川堂代表取締役社長就任、現在に至る。200年に及ぶ父祖の業を継承。地場産業として国内唯一の鋳起銅器産地の発展のために努力。2008年、玉川堂の店舗・土蔵・鍛金場・雁木を、国の登録有形文化財（建造物）に登録する。



寺西 俊輔

STUDIO ALATA 合同会社代表

ARLNATA <アルルナータ>ディレクター

京都大学建築学科卒業後、YOHJI YAMAMOTO入社。生産管理・パタンナーを経て、イタリア・ミラノに渡る。CAROL CHRISTIAN POELLチーフパタンナー、AGNONAクリエイティブディレクターSTEFANO PILATI専属3Dデザイナーとして経験を積んだ後、HERMÈS入社、フランス・パリに移る。レディスプレタポルテの3Dデザイナーとして働いた後、2018年日本に帰国し伝統技術の新たな価値の発信とその認知度の向上を目的としたSTUDIO ALATAを設立。現在は主に着物を用いた洋装を提案するプロジェクトARLNATA<アルルナータ>の名前で活動中。



矢後 和彦

早稲田大学商学学術院教授

1984年横浜国立大学経済学部卒業、1991年東京大学大学院経済学研究科単位取得退学、1996年パリ第10大学歴史学博士。東京大学経済学部助手、東京都立大学経済学部助教授・教授等を経て2010年から現職。専門は西洋経済史・国際金融史。近著に“A CRISIS MANAGER FOR THE INTERNATIONAL MONETARY AND FINANCIAL SYSTEM? THE RISE AND FALL OF THE OECD WORKING PARTY 3, 1961-1980”, IN MATTHIEU LEIMGRUBER AND MATTHIAS SCHMELZER, EDS., THE OECD AND THE INTERNATIONAL POLITICAL ECONOMY SINCE 1948, PALGRAVE, 2017; HUBERT BONIN, NUNO VALÉRIO, KAZUHIKO YAGO, EDS., ASIAN IMPERIAL BANKING HISTORY, TAYLOR AND FRANCIS, 2015; THE FINANCIAL HISTORY OF THE BANK FOR INTERNATIONAL SETTLEMENTS, ROUTLEDGE, 2012.他。